正義のヒロイン凌辱尋問

2014/6/5
Var. 1. 03

シナリオ：石動一
サークル名：ケチャップ味のマヨネーズ

■正義のヒロイン
椎名百合子（しいなゆりこ）

正義のヒーローの一人
超能力を正義のために使う三人のヒーローのうちの一人。コードネームはキネティックガール。
念動力、サイコキネシスを駆使し、衝撃波、念防御などを行い主に接近戦を得意とする。
凛とした顔立ちをした清楚な雰囲気の漂う女性だが、性格も口調も気丈で荒い。
普段は正体を隠すためのサンバイザーをしているが、その下にある三白眼の眼は睨まれると怖い。
いつものように怪人との戦いに勝利し、仲間と別れて一息ついた瞬間の隙を突かれ、別の怪人によって気絶させられる。
そしてヴァレリーによって組織の地下深くへ監禁され、尋問を受ける身となる。

■悪の女幹部
ヴァレリー

悪の組織ソラリスに属する女幹部。人を常に小馬鹿にしたような態度と口調。浮かべる笑みは全て嘲笑の意図がある。
人体改造によって産み出された怪人と肉体強化された戦闘員を引き連れ、世を混沌に陥れるべく活動する。
怪人・戦闘員製造のための一般人の拉致も仕事の一つである。
彼女にとって組織に属する以外の人間はただの虫に等しく、同等に扱うに値しない存在でしかない。
自身も元々はソラリスの社員だったが実験により洗脳・肉体強化を施され以前の記憶は無い。
突如現れた超能力を駆使する三人のヒーローと対立しており、たびたび煮え湯を飲まされている。
ヒーローの一人である百合子を捕らえ、残る2人の弱点を知るべく組織の地下に監禁する。

■悪の組織ソラリス

全世界の人間・動物を支配下に置き、征服を目論む悪の組織。
元々は新進気鋭の製薬会社であり、世に貢献しようと新薬の開発に勤しんでいた善良な企業だったが、
治験実験中に患者の一人の肉体に突然変異が起こったのをきっかけに、人体改造の研究を開始、
社員を実験台に洗脳薬の技術を高め、ついには実験で産まれた怪人と洗脳で従えた戦闘員を連れ世界征服に乗り出す。
しかしその目論見は3人のヒーローによって阻まれている。

■寄生生物

秘密組織の人体改造実験の際に産まれた寄生生物。
人間に寄生し、神経毒と快楽物質で対象を衰弱死させた後、肉体を乗っ取る。
しかし組織からはこの生物は使い道の無い失敗作として扱われていたが、今回の実験で日の目を見ることになった。
外見はカブトムシの幼虫に似ており、腹部が異様に膨れている。これは寄生した相手の体液を吸い取るための触手が収納されている。
触手には二種類あり、一つは寄生相手を即死させないための神経毒を放出
もう一つは寄生相手の体液を分泌させるための快楽物質を放出する。
これにより寄生した相手の肉体を長く保ち、より多くの体液を摂取する事を可能にしている。
当然ながら、寄生された相手の精神の影響は考慮されていない。

1.　1日目

百合子「はっ……はぁ……ッ！はっ、はっはっはっはっはっ……」
「ゲホッゲホ！　カハッ……はぁ……」
「くそ、頭が痛い……けほっ、ここは……？私はいったい……」
「落ち着け百合子、呼吸を整えろ……すぅー、はぁー……すぅー……」
「暗い……床、は冷たいが空気が生温い……ここは……地下、か？」
「ああ……、そうだ、私は……あいつらに」

ヴァレリー「灯りをつけろ」

百合子「うぁ……」

ヴァレリー「気分はどう？　キネティックガール……いや、百合子と呼んだ方がいいかしら」
百合子「ヴァレリィイ……！」
ヴァレリー「頭がガンガン痛むでしょう？」
「念動力の防御なしに怪人に思い切り殴られて、ふふ」（被虐的な口調で）
百合子「私をどうするつもりだ！　この鎖を外せ！」

ヴァレリー「そんな怖い顔しなくてもいいじゃない、ねぇ百合子？」
百合子「その名で呼ぶな！」
ヴァレリー「ＥＳＰ（イーエスピー）は集中力や精神力が乱されては使い物にならない……」
「今のあなたがまさにそう」
「それってとっても、素敵な状況よね？」
「私があなたをこうして見下ろして、素敵よ百合子」
百合子「頭痛がおさまればこんな鎖も、貴様も、後ろの木偶の坊共も吹き飛ばしてやる」
ヴァレリー「そう、別に構わないけどその前に……聞きたい事があるんだけど」
百合子「私を捕らえたのは尋問するためか。はっ！口をわるとでも思ってるのか？」
ヴァレリー「すぐになんて期待してないわ……じゃなかったら捕まえてないし」
百合子「だろうなぁ、で？　何が聞きたいんだ？　死んでも黙ってやるよ」
ヴァレリー「もちろん仲間の事よ……あなたの大事なお友達」
「超能力が使えるなら正義のために使おう。だなんてくだらない理念で、腐った眼を輝かせて。
我が組織の邪魔をするあと2匹のゴキブリの駆除の仕方をね」

百合子「どっちがゴキブリだ……こんな薄暗い場所に仲良く集まって、貴様らのやっている事ときたら、罪の無い一般人を拉致し人体実験して、洗脳して改造して……グロテスクな怪物に仕立てあげる！」

「貴様らのせいでどれだけの人間が悲しみ苦しんでると思ってるんだ……！」

「後ろのデカブツなんか人の原型をとどめてないじゃないか！」

「腐ってるのは貴様らの方だッ！」

ヴァレリー「価値観の違いを論じるつもりはないのよ百合子……それで？」

「お仲間の弱点はなに？

あなたが戦いの直後に油断しやすいみたいな、知ってるんでしょう？」

百合子「言っただろう、死んでも黙ると」

「私は超能力に目覚めてから貴様らと戦う決意をした。仲間の事を喋るのは悪に屈することになる」

「例え何をされようが、殺されようが、貴様らになど絶対に屈しない！」

ヴァレリー「しょうがないわねぇ……じゃあ死にましょうか。殺せ」

（拳を振り上げる風きり音【ブォン】）

百合子「ひっ！ぁっ！」

ヴァレリー「ふっ……ふふっあははっ！うそよう、そ！震えてるわよぉ？殺されてもいいんでしょう！？ねぇ百合子ぉ！」（それまでの口調が嘘のような勢いのある嘲り）

百合子「くそっ……！くそっ……！」

「キネシスが使えれば貴様なんか！お前なんかぁぁぁ……！」

ヴァレリー「あはは！無様ねぇ！惨めねぇ！」

「……そう、喋りたくもないし死にたくもないのね」

「じゃあ、喋るか、死ぬまで黙るか、選ばせてあげる」

百合子「尋問か……くそっやってみろ。お前らに何をされようが、私がくじけると思うなよ」

「例え泣き叫ぼうがわめこうが、最後まで心は絶対に折れないからな！」

ヴァレリー「その強情さがいつまで続くか見もの、ね」

「おい、虫を出せ」

（何かがガタガタ動く音）

百合子「ひっ！」

百合子「うぁ……！なんだ、それ」

ヴァレリー「あなた虫は平気？　可愛いでしょこの子、カブトムシの幼虫みたいで」

百合子「そんなデカイ幼虫がいてたまるか……！　あっやっ近づけないで！」

ヴァレリー「この子ねぇ、実験の失敗作でね、使い道に困ってたのよ」
百合子「そいつを私の視界から外せぇ！」
ヴァレリー「そんなに嫌がらなくてもいいじゃない。このおなかのでっぷりしたトコとか、可愛くない？」
百合子「可愛いわけがあるか！ひっ、くっつけ、うぁぁ、ぬめぬめ、ぬめぬめしてる！？離せ！離せ！私はこういうの苦手なんだよぉ！」
ヴァレリー「好き嫌いはよくないわよね百合子。せっかくだから、仲良くしてもらいなさいな」
「この子ねぇ、人の身体を宿主にして成長するの。このでっぷりしたお腹の中にい、たっくさんの触手みたいな管があって、
それがあなたの身体を這いずり回って体液を貪り尽くす」
百合子「なっ、き、寄生するのかっさ、させるのか！？そいつを、わっ私に！？」
ヴァレリー「寄生する方法は、アソコにね……おちんちん入れるみたいに入れるの、それから胎児のように子宮を宿にする」
百合子「やぁ、そんな、やめろ、そんなの、入るわけが……」
ヴァレリー「柔らかいから大丈夫よぉ……さぁ百合子、力を抜いて……」

百合子「や！やだ！やだやだやだぁ！やだ！やだ！いれたくない！やめろ！やめてぇぇぇぇ！」
「拷問するんだろ！なら爪を剥ぐとか！眼を抉るとか！歯を抜くとかあるだろ！？腕でも脚でも千切ればいい！そっちの方がマシだ！た、たのむ」
「あっやっやだっ、ん、ぐっ……ぅぅ……」
ヴァレリー「ほら、ほらぁ。入るわよ、あなたの綺麗なピンク色のアソコに！蟲が！」
百合子「ぐぁ……！うっ！入れさせて！たまるかぁ……！」
ヴァレリー「じれったいわねぇ……しょうがない。ちょっとお口に失礼、拳突っ込ませてもらうわ」
百合子「んぐっ！？　ん、ぐむ……！」
「ん、む、ん、ぐ……ぷぁっ……お〝あ〝っ、おごっ！」
「ごっがっお〝ぉ！おう〝ぅ〝っ！」

（虫の鳴き声）

百合子「お〝ぁ〝っ、おごっあっ、おぇっお〝っお〝っぁっ」
（飲み込む）
百合子「あっあぁ……お〝ぇ〝っ、おえ〝ぇ〝ぇ〝ぇ〝……」
「ゲホッカハッ、おえぇぇぇ……！ゲホッ！」

ヴァレリー「お味はどう？」
百合子「は、はいった？、入った、入った入っちゃったぁ……いやぁ……！」
「おえ、おうぇ……気持ち悪い……生ぬるい……！　うぁっ……ちくしょう……！」
「どうしよう、どうしよう……あいつが、私の中に……！」
ヴァレリー「寄生虫は性器へ到着したらすぐさま管を出して、子宮へ向けて奥へ奥へと入り込む」
百合子「あっ、ひっひぃっあっあっあ」
「いぎぃ……！いたっ、痛い！あっ、いた、い！熱い！アソコっ、がっ、あ〝ぁ〝ぁ〝ぁあぁあぁ……」
「あぁあぁあぁ……あぁあぁあぁあぁあああ！痛い痛い痛い！！あ、あぁあぁ！」
「あ〝っやっ！あぁあぁあぁあぁ……！あぁあぁあぁあぁ……！！！」
「入ってきくる！うご、いてる！あ〝っ、いっがっ、私のアソ、コ、でぇ、やっ、い、た、あ、はぁぁ！うぁぁ……！あぁぁぁぁ……」
ヴァレリー「すぐに気持ちよくなるから頑張ってね。それじゃあまた明日……」
百合子「いやぁぁぁぁ……出してぇ、出してよぉおおおお、いたいぃぃぃぃぃぃ」

（ヒールと足音）
（扉が閉まる）

百合子「ひぎっ！あがっ、がぁっ、ぐっぁっ痛い、痛いよぉ！動かないで！いぎっ、うぁぁああ、くそっ、くそぉ！」
「やめ、あっぎぃ、いぃぁぁぁ……！
「あ、がっ……うぁ……かはっ！」
「はっはっはっはっは……はっはっはぁっはぁっはぁー……はぁー……」
「ゲホッ、ゲホッ……はー……はー……」
「い、いたく……なくなった……？なんで……？」
「ぐっ、身体痛い……お腹じゃない……」
「あの……おえ、虫はなんだったんだ……くそっ気持ち悪い」
「私のアソコニ、あれが入ってるなんて考えたくも……どうやって出せばいいんだ」
「ふっ、ふん……！ぐぅぅぅ……！」
「っはっはぁ……ダメだ。力を入れても出てこない……」
「アソコが蟲でいっぱいなのが、クソっおぞましい……ぁっ、動いたら、感じる……」
「はぁ……これから私、どうなるんだろう。このまま、殺されるんだろうか」
「死ぬのは覚悟していた……けど、あんな虫を飲まされて死ぬなんて嫌だ」
「でも、仲間のことを喋ったら……みんな殺される」
「死ぬなら、私……だけ。それが最善……だよね」

「弱気になっちゃダメだ百合子。あいつらをいい気にさせるな、思う壺だ」
「んん……身体の痛みも……いつのまにかなくなってる、頭痛も治まってる……」
「これなら、脱出できそうだ……大丈夫だ、百合子、帰れる。生きてで……」

【虫が蠢く音】

百合子「ひぃあっな、なに！？」
「うぁ、ひっ！ぁっなに！あ、そこ、うごめいてる！？えっ？えっ？」
「あぐっ……！また痛いのくる！くそっ！耐えれ、あ〝っ」

【虫が蠢く音】

百合子「お〝っあ〝、あそこ、ふくれ、、あ、あっなに、これ、やっやっやっあっ」
「うぁ！はいっ子宮にっはいったっ！がっひっひっ、ひぃあ！」
「下半身が、全部蟲でいっぱいになったみたいに熱い……理性を……や、だめぇ、むりぃ！」
「こんなのっ落ち着いて見れるわけがっ、あっお〝っ」
「いや！ひぃ、ひぃ！なに！？なにこれ！？アソコから白い管みたいなのが出てきてるよぉ！た、たすけ、いやぁ！」
「いやだぁぁぁ！やだ！やだぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

【触手が蠢く音】

百合子「あぁぁぁぁ……あいつだ、虫だ、あいつが私の中で腹を破って管を……ひっ身体を這って……！」
「やめろ！這うな！やめろやめろやめてぇぇぇぇぇぇ！やめて！やだ！やだぁ！お母さん！おかぁ！あっやっやだぁ！」
「首にまとわりつくなぁ！あっ！服の下を、這い回って、や、やぁ！下着が、ずれ、うぁ！？んっぁっ……」
「あっ…あっ…？へっ？と、止まった？　あ、ちがっこれっアソコでふくらんれっ、広がろうとしてるっわかるっアソコぜんぶがこいつをかんじてっ」
「まさかやめろ、やめ、あ〝っあ〝っ！ふくら、む！広がる！ぃあっ、あぁっあぁぁぁ！」
「ひぃぁあ！うあぁ！うあっあっあっあっあ！おう！あ、あぁぁぁぁぁぁぁ」

【千切れる音【ブチ】

百合子「あぁぁぁ

2.　2日目

【触手が蠢く音】

百合子「あ、あぁ……ん、おぐっあぐっ、はぁ……んぅ、あっあん、あぁ、あっ」

ヴァレリー「進行が早いわね……もしかしたら、あなたとその子、相性が良いのかしら」

百合子「うぁあ……あっ！あっいっあっあぁぁぁぁぁ！ぁぁあ……はぁっ……！はぁぁう……！いぎぃ……！」

ヴァレリー「床がびしょ濡れ……ご機嫌いかが？　話す気にはなったかしら？」

百合子「おぁ、ああっ！ひっひぃっ、ひぁっ、あ、っあぁ……んぁ！はぁ……！あぁぁ」

「がっく、あん、あっこっこっ、こ、こ、こ、ろ、し、あっ、て、んぁ！くそ！殺してやる！」

「よぐも……！くぁ、く、あんなもの、あんな酷いものを、いれやがってぇぇぇぇ……！」

「初めてだったのに、初めてだったのに！初めてだったんだぞ！！！殺してやる！絶対に殺す！うぁ、あぁぁ！もうやだぁぁぁぁ！」

ヴァレリー「私への憎しみで気力を保ってるってところね……」

「水を飲ませてやれ、だいぶ水分を失ってるだろうからな」

百合子「んぐっごぼっあっはぁ……！みずっ、みじゅっ」

「ごく……げほっもっ、あっいまだめっ！あっあっあっあっ！！ま、イく！は、はぁぁぁぁぁぁぁぁ！あ、あぁぁぁ！」

「はぁ……ひぁっあっあっおぐっあぐっ……はぁっ……！はっ……ふぅぅぅぅぅ……」

ヴァレリー「お水はもういいみたいねぇ」

百合子「にょ、む。のむ、のませ、て」

ヴァレリー「喋ったら飲ませてあげる」

百合子「りゃれが……くそぉ、ほろして、や、うっぁ」

「くそっ！くそぉっ……！ちくしょお……！逃げてやる！逃げて、おまぁ、あ、いっいぎぃ、はぁ、ふっはっへっおっ、あっ」

「まけ、あっなぁっあぃぃぃぎぃ！イきたくいない！止まれ！気持ちいいの止まれ！はぁっとまっ、てぇ、おねがいだからぁ……！」

ヴァレリー「水、ここに置いといてあげる。飲める時に飲みなさいな」

「あぁ……鎖つけたままだと飲めないわねぇ」

百合子「うぁっ！」

ヴァレリー「外してあげるわ。どうせもう逃げられないんだし」

百合子「やめ、あっやめろ！外すな！このままでいい！なにもおお！あぁぁぁぁ！動さかない、でぇ！いやぁ！」

ヴァレリー「ふふっ……なんでかしらぁ？」

百合子「やだやだやだやだ外すなは外すな外すなぁぁぁぁぁぁぁ！」

百合子「やだぁぁぁぁぁぁ！やだぁ！やだ！やめてぇ！やっあぁぁぁぁぁぁ！」

「おし、はいっおぁっ！いぎぃ！おぉぉ！あぁ！ひぃぁぁぁぁぁ！」

「はいってくるよぉ！おしりにぃ！おしりぃに！あぁぁぁぁぁぁ！！」

「いだっい！痛い！痛いぃぃぃ！いぎっいだっいぎぃ！ひぃっ！ひっぃぃぃ！」

ヴァレリー「お尻は頑張ってガードしてたのに、入っちゃったみたいねぇ！あははは！」

百合子「がっあぁ、ぎっぐっうげっごほっ！げほっ、はぁ、い、あれ、あっんっあっあっんっんっんっ」

「んぁっアソコまたっはげしっおしりっおしりもはげっあっやっやだ！まただ！やだ！だめ、だめぇ！」

「だめだめだめ！いやぁ！やだ！気持ちいいのやだぁ！もういい！いいよぉ！」

「抜いてぇ！抜いてぇぇぇぇぇ！うぁれりぃ！うぁれりぃぃ！うぁぁあっ！あぁっあぁ！」

「あぅ……ひぎぃ！いっぎ！がっおっおっおっおっあっおっおっおっおっおぁ！」

「おぁ……く、そ！まけ、るか！」

「何度、い、あ、イかされ、ても！あっあっそ、アソコほじくられてもぉ！お、しりもぉ！」

「たえ、た、たえ、が、あったえて！やぁ、あぁっイくっイくっイくっイくぅぅ！」

「なんでぇ、きもちよいのぉ！あっぁぁ！あぁ！あぁ！あぁ！あぁ！あぁ！！」

ヴァレリー「喋れば楽になれるけど、その気になった？」

百合子「あんっ、あっあ、いっあっそこっあっ、よわ、あぁっあっ、あん、あぁっんぁぁおく、らめっらぁ！」

「おひり、いい、いいよぉ！あっ！おくぅ！はいってぇ！あはぁっ！あっあぁ！」

「うぁぁっ！ひ、ひぃいいいいいいい！あぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

「ひっはっはっひっひっひぃ……ひっぬけ、いっ、いっきにぬけ、たら、ひぁ、しゅご、いのきたぁ」

百合子「これもしらな、初めて、こんな、しゅごいの、あはぁっ……！んぎぃ、あ、また、はいったぁ……！」

「はぁ、うっあっあっおくっおくきたっきたっきたっおくっはいっるっひろっがっっおしりっあにゃっどんどんひろがってぇ」

「あっ……とまっ……あぁぁぁぁ！はぁぁぁぁぁ！いぎぁ！うぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

「はひゅ、はぁ、ひっひぃ、はぁっ、はぁっ、ぬけ、ぬけるの、しゅごい、じゅごいぃ、くせになっちゃう」

「あひっまたきたっきてっきてっはいって、はいっはっあっあんっあっはぁぁぁ……あぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

ヴァレリー「はぁ……また明日ね」

3.　3日目

百合子「ふーっ……！ふーっ……っ！ふっ……ふーっ！」（呼吸のリズムはこれくらいがいい感じかな？というのがあればアレンジしてみてください）

ヴァレリー「そろろそ限界じゃないの？」

百合子「ふーっ……！ふーっ…！」

「ふっ、はっ、はっ、ふぁ！ぎっ、ぎぃ……！」（はっはっは、ふっふっふ、などは全て短く激しい呼吸です）

ヴァレリー「その食いしばってる口で、ちょっと喋るだけでいいのに」

百合子「ふっ、ふっ、ふっ、ふっ、はっ……んあっ、ふぁっ、おぅっ、おぉ〜っ、おぉ〜っ、うっ、うぁっ、ふぅぅ！ふぅぅぅ……！」

「だれが、おまえの、いいにゃり、に、な、うっ、ふぅーッ……！ふっはっ、な、るか！」

「耐えて、る、ぞ、ふっ、ぅっ、あ……ずっ、と、イって、てもぉ！」

「ヴァレリイイイ……！お前が、いるときだ、けぇ、たえ、たえ、れば、いい、あ、ぐっぐぅ！うぅ！」

「かにゃりゃずぅ、たしゅ、おぁぁ、イ、イくっあっな、がま、んうぅぅぅぅぅぅ」

「はぁっ！はぁっ……！たしゅけに、ふっ、くるから、ふっ、なっ、ふっ、あぅ……あん、あ」

「ちく、び、やめ、はぁう、ん、んぁ、はぁん……あぁ、はぁ、はっあっあっ、あん」

「はぁ……あへ、ふへっ、はっははっ……ははっ仲間が助けに来る。必ず」（はっははっ…は弱弱しい笑い）

「そしたら、はんっ、げき、だ、うぁ、れりぃ……今度はぁ……こいつぅ、をお前に…食わせ…ん……てやる」

「なん、じかんも、ずっと、じゅっと……気持ちよくなって、はぁう……はっ、ふぅ……ふぅ……」

「頭んなか……おあ〝っあ〝っあ〝ぁぁぁぁぁ！あ〝っあはぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！あぁぁっはぁぁ！」

「ひっあっいっ、イって、る、あっあっイってぇう！ひってう！はっ、はっ、はっ、はっ」

「はへぇ、あはっまた、イっちゃっ、あんっあっ、あぁ……あん、ふぁ、あぁん」

「れも、もう、うぁれりぃのまえで、イかなけれ、んっ、ば、ぁっ、らいりょ、ぁ」

「あらひ、あっまけなっまけないっあっあっしんれもっまけにゃい、にゃぁぁぁぁ、あっふっあひっあひっひっあっぁっ」

ヴァレリー「一ついいこと教えてあげる」

百合子「ふぁ、はぁっ、はっはっはっ、あっ！あっ！ん〝っん〝ん〝あ〝あ〝！あぎぃ！」

ヴァレリー「この触手って、あなたの体液を摂取するためにあるの」

百合子「はぁん……あん……あっいっはぁ……はぁぁぁ……」

ヴァレリー「汗とか、よだれとか。とにかく体液、水分に反応すると激しくなる」
百合子「イかな、い、もっイきたく、なっあぃ、いぃ、ぃいぃ、イきたくないぃいぃい、ぃぁ、あぃ」
ヴァレリー「つーまーりー、あなたにお水をぶっかけると、どうなっちゃうと思う？」
百合子「えぁ？　あっ、はぁっ、やめっ、やっ、あっ、あぁ」
ヴァレリー「水、かけて、なるべく全身にね」
百合子「あ〝っま〝っま〝ぁっ！」

【水飛沫】
【触手】

百合子「ア〝ぁ〝あ〝あ〝あ〝あ〝ぁ〝あ〝あ〝あ！あ〝ア〝ッ！はァ〝ァ〝ァ〝ア〝ア！！」
「お〝っあ〝っ！ひぎぃぃぃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！ぎぃぁ、あぎっぎぃぃ！」
「やだぁ〝ぁ〝ぁ〝ぁ〝ぁ！や〝ぁ〝ぁ〝ぁ〝ぁ〝！や〝っ！あ〝ぁ〝ぁ〝ぁ〝！」
「うぁ〝っ！あぁぁぁあアァァ！　あっあっあぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」
「ひぃぃぃぁ！も、やだぁ！たすけ、あぁぁ！たすけてぇ〝ぇ〝ぇ〝！」
「ち、くびぃ！すわないでぇぇぇ！アソコもやだ！お尻もやだぁぁぁぁぁ！！あっはぁぁぁぁん！あぐっぎぃっひぁっあっ！」
「えぐれっえぐられてる！はげしっはげっしっぃ！太くなって、ゴリゴリしってぇ！いやっいやぁ！いや、あ〝っあ〝っ！」
「うぁ！あっ！たすけ、あぁぁぁぁぁぁぁぁ！」
「こわ、こわれる！こわれちゃうからぁ！アソコこわれちゃう！こわれるからぁぁぁぁぁぁ！！」
「あぁぁぁ！あぁぁぁぁぁぁぁぁぁあああ！はぁぁぁぁ！あ〝っ！イくっ！」
「やっイっイくっ！またイく！イく！みにゃ、いでぇ！みる、み、みる、あぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」
「あぁぁぁぁ！イくっ！イくぅぅぅぅぅぁぁあああああああああ！！！！」
「はっはっはっはっ……はぁっはぁっはっはっあっあっあっあっまっあっイっあっあっあ」
「うぁっうぁぁ……！たえ、たえる、の、ゆり、こ！こんっな、虫にっまけっあってったまるっかぁぁぁあああ……！」
「くしょ、くそっ早くっ助けにっ……持たないよぉっお〝っあふっあ〝っううっあっいぁっ」
「れも、これなら、まだ、たえ、ら……あ？　うぁっなっなに！？なになになに！？」
「触手がぁっごっぁ〝っ！ふくら、ひぃっふくらっいきなり膨らむっ！アソコとお尻のやつがぁっ」

「なんっらの！なにしゅるのぉ！？やっやっやっやっくるっなんかくるっすごいのくっ」

「はぁ〝お〝っ！……ぁ〝っ……！がっ……！い〝っ……！お〝お〝っ……！」（声にならないほどの絶頂。肺の中の空気を全て吐き出す勢いで）

「あ〝っあ〝～～～……あ〝へっ、へぁっはっ……お〝っんお〝っんお〝っ！」

「ひっひっひっはっはっはっは……はへ、はへぇ……あえぅぇ……」（気絶する百合子）

（1、2秒の無音）

「うぁ〝っ！？あ〝ぁ〝ぁ〝ぁ〝ぁ〝ぁ〝ぁ〝ぁ〝ぁ〝！！！」

「あ〝っあ〝っ！はっ！あっ！ひっ！？ひぃっ！？ひぃっ！？がぁっ！？」

「げぼっおえっおげっ……！」（嘔吐する）

「げぼぁっ、げっぎっはっ、げほっ、はっ、しっ、死ぬっ、はげしっすぎっるっきもちよさがっおかひぃ！」

「いままれよりっあっあっひっあっいっあっいぃぃぃ！あっしゅごっしゅごぉっ！」

「あひっ、かはっ、らぁ、らぅ、ら、らめっひぬっ死ぬっ、も、もう死ぬ、死んじゃうっ」

「たえられっあぐっぐぅ！あ〝っ、たえられないっ死ぬっ死のうっ死にたいっ死ぬっ」

「したをっあっあぁ……舌をかんれ……ひっ！」

「なぁ、触手が口にせまっおごぉ！がっあ……ごぼっ、おげっ、おぶっ、あぶっぶぁ……げほっげほっ」

「げほっ……もういち、くぁ！？はぁ！？　きゅっあっあっはげっしっ」

「あっあっあっあひっあひっ、しっぬしぬっ、ふっふっふっふーっ、ふっふーっ、しっしぬっイきすぎてしぬ、っしんじゃっあひぃ！」

「くるくるくるくるぅぁぁぁぁぁ！イくっ！やっイっイくっ！はげしっぁ〝ぁ〝ぁ〝ぁ！ひっ、イくっイくっイくっい〝っ」

4.　4日目

百合子「あぁ……ん、あはっあん、はぁ……んぁ、あっいっあっあん……うぁ、はぁ、ひっ、あひっ」

「あん……もぉ……むりぃ……あっイくっまたイくっ！あっ……！！」

「はぁ、はぁ、はー……あんっあへぁ、あっあはっ♪あははっ♪……あっ」

「気持ちいいよぉ……あっん、あっあんっはっんっんっんっ……ぜんぶ、あっまんこっなっ、ちゃったぁ……あっきそっきそう」

「イきたくないのにぃ、イきたいよぉ、あっまたクるっキたっあっあっあっ！あひっひっあふっあっひっひぁ！はぁぁぁぁぁぁ……」

「いっいぁ、んぁ、はぁん、あん、あー♪……あぁ」

【鉄の扉が開く】

百合子「あー、うぁれりぃー、あっあっ」

「うぁれりっ、ふっ、うぁれりぃぃ……」

「わたし、しゃべる、しゃべるぅ、しゃべ、しゃべる」

「にゃかま、しゃべるからぁ、も、もうたすけてぇ、あっ、あん」

「んはぁ……みずかけられてからぁ、ずっ、あ〟っとぉっ！　はあぁ！　あっ！」

「おまんこぉもぉ、おしりもぉ、うぁ！　あっイくっあっあっあぁぁぁぁぁぁ……！」

「……あっ、はっ！はっ……はぁ！こわ、こわれちゃって、まんこがばかにぃにゃって、んはぁっ」

「もっわらし、あたま、まんこになっちゃっあっあはぁ！んあぁぁ！あぁっあぁぁぁ！」

「しゃべっなかまぁっひとりぃっおぁっあっんっんぅ……！」

「あっまっイきそっイっくっあっはぁぁぁぁぁぁぁぁぁぅぅん……はぁ、はぁ……あんっ」

「ひぁ……なんだっけぇ、あ、なか、ま。ひとり、ちょーのーりょく、てれぽーとっあんっ」

「てれぽーとできる、あっあんっひと、うごくときとまるのぉ、とまってぇ」

「あっうぁっうあっあっあっとまるのぉ、ときにぃ、すき、す、すき、あんっできりゅ」

「もっあっひとりっ、あ、りーだーっ、りーだーっわらひとおなひ、きれしすつかう」

「あっいっあっだっか、あっらぁ、んぁ、ゆだんっゆだんっさせてぇ！」

「あっあっあぁぁぁぁぁぁ！あぁっ！あっあっイっあっあっあっ！イっいっいっイっイきながっイっちゃって、あはっぁ！」

「んぁっきそっくるっあっあっあっあっあー……！あ〟ー……！」

ヴァレリー「やっと言ってくれたわね、これでゴキブリを駆除できるわ」
百合子「くじょ、しれぇ！あたしのまんこのも！くじょ！しれぇ！」
「ぐちゃぐちゃなの！まんこもおしりもぉかきまわされてぇ！ずっと、ずっともちちいいのぉ！な、んでぇ！」
「からだぁ！からだも、へ、へんっなのぉ！　あっあっあ」
ヴァレリー「どう変なの？」
百合子「へんなのぉ、へんなのぉ！」
ヴァレリー「ふうん……ねぇ百合子、凄く気持ちいいのは見てわかるんだけど、具体的にどう気持ちいいのかしら」
百合子「はぇ？へぁ、しょれ、はぁ」
ヴァレリー「おまんこはどんな感じなの？」
百合子「まんこ、おまんこ、はぁっんっほしょいのがぁ、たくしゃん、たくさんんぅ！」
「ほそい、くだっがぁ、たくさんん、おまんこのなかで、ぐちゃぐちゃ、うごいれう、めちゃくちゃにぃ」
「しきゅーも、れんぶ、ほそいのでいっぱいになっちゃってぇ、どこできもちいいのかぁ、わ、あっわかんなぁっあはっ♪ひっ」
ヴァレリー「お尻の穴も同じ感じ？」
百合子「おしりぃはぁ、ふと、ふといの、ずぼって、おっ、ずぼっすぼってほじくってくるっくぁっほじっぁっあっ」
「ごりごりってされるとっあたまっばかになっぁっちゃってぇっおっあっおぉぉぉぉあ」
「あはっ……あはっあっあひっ……！」
ヴァレリー「クリトリスは気持ちよくない？」
百合子「いっいい！きもちいいよぉ！ぐりぐりって、にゅるにゅるって！されてっこしゅるの！くいくいってされるっあっ」
ヴァレリー「他に気持ち良いところはどこ？」
百合子「れんぶっ！じぇんぶぅ！　あぁっ！　いぃっ！ひぁぁ！からだぜんぶまんこになってるぅ！」
「わきっも、あしのうらっもっぜんぶ、あたまのなかもっまんこ、まんこなのぉ！」
「あろ、ときどきぃっぶわってぇ、あっひっふくらんれ、とばってぇ！あっあはぁっ！」
「なかにだされるとっトぶっトんでっしにそうなくらぁっぃやばいっおかされてっこころされそっなくらいっきもちよくされえっ！」
ヴァレリー「そう……凄いわね」
百合子「りゃから、うぁ、うぁれりぃ、うぁれ、これ、はずしっはずしてぇっもっらめっおかしいのっゆりこのまんこおかしいのっ」
「しゃべっしゃべったからぁ、はずしてぇ！はずしてよぉぉ！」
「あんにゃい、する！　まんこなおったら！する！なかまのとこ、つえてくかやぁ！
もうイき、あっイくのやっやっやっあっきたっあっあっあっあっあっあっあっあっ」

「ひょれに、わらひ、も、もう、人らない、のかなぁ、うぁれりぃ」
「わらひっもうっおまんこになっちっあっあっったぁ、おまんこにぃ、なっちゃっ」
ヴァレリー「あなたはまだ百合子。百合子よ」
百合子「ゆりこぉ、わらひゆりこっりゃからはずしれぇ、ゆりこのまんこ、なおしてぇ」
「きもちいいのっもー いらないっいらないからぁっ！まんこなおしてぇぇぇぇぇぇ」
ヴァレリー「その前に私はやる事があるから、もういくわ」
百合子「えっらん、れ？　はずしてくれるって？　おまんこからこれはずしてよぉ」
ヴァレリー「これから作戦会議しなきゃ、怪人も新しく作る必要があるし……あとは……」

百合子「うぁれりぃ、うぁれりぃぃぃ！はずしてぇ！なんではずしてくれないのぉ！うぁれりぃぃぃぃ！」
「やだ！はずして！わらひ、しゃべったよ！なかまぁ、しゃべったよぉ！」
「おまんこもういいよぉ！うぁれりーもやればわかるよっぱかになっちゃうからぁ！」
「きもちいいのやなのにっ、きもちよくてぇっ！もっと！イきたくないのにぃ！イくのにぃ！」
ヴァレリー「その子ね、一度寄生すると死ぬまでとれないのよ」
百合子「あひっあ、いぎっあっと、と、れ、れ？」
ヴァレリー「飲んだ時点で死ぬまで犯されるのよ」
百合子「へぁ？しぬまれっおかしゃれ、うぁれりぃ？　あっ」
「うそれしょ？　はずすって？　やくそくしたぁっあっまたっあっ」
ヴァレリー「外すなんて一言も言ってないけど？」
百合子「あっあっあっまたっイくっ、うぁれりっ、あっあぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！はぁっはっはぁっ！うぁぁぁ！あぁ！」
「はずしてぇ！はずれないなんてうそでしょ！はずしてぇ！はずしてよぉ！ひぃあ！あっうあぁぁぁぁ！」
ヴァレリー「様子は見に来てあげる、でも今日は忙しいからまたね」
百合子「まっあっまっれっまっれまっあっあっれぇ……！」

百合子「うそ……でしょ？　わたし、このまま、しぬまで、むしにおかされるの？」
「や、やだよぉ、やだよぉぉぉぉぉ！しにた、しにたくない！かえしてぇ！おうちかえしてぇ！ぱぱとままにあわせてぇぇ！」
「うぁれぃ！うぁれりぃぃぃぃ！もどってきてよぉ！」
「うぁれりぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃ！！！」

5.　5日目

百合子「あひっあは……あはっんっきもちいっはぁ……んっそこっんっあぅん……そこぉ……」

「あひのゆびっのっあいだ、にゅるってするの、いい、また、きもちいいところ、できたぁ、あひっあっん」

ヴァレリー「ご機嫌いかが？百合子」

百合子「あー、うぁれりぃだぁ、げんっあんっんっげんきぃっいいいっあっイきそっ」

「イきたいっイこっ？ねっまたっイっゆっくっイっあっそっそうっそんなっあっ」

「はぁぁぁぁ……あぅ、あっうぅっ、うん、いいっじょーず……えへっいまのすきぃ」

「あはぁん……うぁ、ひんっいっあっそっじょーっあっ！　はぁっ……イったあとぉ、からだぜんぶ、つつんでぇ」

「あっいっいいっいっあっはっ……あんっはぁ……ふぅぅ……あはっきもちいいよぉ……！」

「からりゃっにゅるってうごいてっ、しょくしゅっつつまれるのっすきっすきぃ」

「んっちゅー、ちゅーもしれ、んぶっ、おぶっぷぁっはぁ……んちゅ、むぁ、ふぁ、んじゅ、んむっふぁ、すきぃ」

「ぢゅっぢゅるっ……んはっのどもっはいっおえ〟っが っあ〟っお〟っ……っはっ！　はーっ…はーっ……！」

「ちゅっちゅっ……ぷはっ、むし、わらひもむひになっはから、ぜんぶあげりゅね」

「わらひの、しょじょもっおひりもっあげたかりゃっ、れんぶっもらっれっ、たべれっちゅーしてぇ、りーだっ、むしっ」

「ぢゅっ……ちゅっんむっ……はぁむ……んっ……あっあはっあったかぁい……すきぃ、うれしい……」

「あげりゅ、わらひのれんぶ、たべてっきもちいくしてたべてっ、ふぁーすときすっ、あんっあっちくびすきっ」

「きす、とっておいたのっりーだーにっ、わらひっすきっだっのぉ、りーだーっでもっあっでもぉ」

「こっちのほうが、すきぃ、きもちいいからっぁっまんこっなでてっつついてぇっはぁっ！あっ！そこぉっ！いぃぃよぉ！」

「つつんれっ、わらひのれんぶっ、つつんれっ！しょくしゅれっ、かおっかおもっ、めもっ、はなもぉっくちもぉっ！」

「きもちいいのすきぃらからぁ……あんっきたっえへっ、うれしっはぁふ……はぁっはっふっ」

「そしたらっあっと、トばしてっまたっまんこでもっおしりでもいいからっえぐって、イかせてっイきながらイかせてぇ……」

「トぶとっ、あたまぶちってなってっまっくらになって、おきると、げんきになっあっあっあっあっあ！あっ！あうっ！あうっ！あっあっあっぁ！」

「あっイっあっあうっまだっもっと！もっと！あっはぁっ！もっと！いっしょに！まんこおしりいっしょ！あっあっいっいっイくっ！」

「イくっ！あっぎっあっ！おっおっぁっあっあっあっ！はぅ！あっいっあっあぁぁぁぁぁぁぁ！ひぃ！これぇ！いいよぉぉ！」

「あはぁっ……あひっあうっあっうっあっ、もっかい、もっかい、する？あんっそー、さいしょはっやらひくひてぇ……」

「うん、あっあっはぁ……まんこゆっくりねっ？おしりおくいれてね？あっあっする？しちゃうの？しちゃあ〝っ！」

「あ〝お〝っあ〝っこれっあ〝っそっこれっあ〝っいっいっいぃ！そっいっきにっあっあっうあっあうっあうっあ〝っ！」

6.　6日目

百合子「ひぁ、ふへっあはっあひっふふっんふっんふふ……ふふっ」
ヴァレリー「ねぇ百合子、明日、決着がつくわ」
百合子「ふふ……んふっもうちょっと、もちょっとかな、ふふっまだかなぁ、ふふっ、あー……んふふっ」
ヴァレリー「快楽はおさまったみたいね、虫が弱りはじめてるみたい」
百合子「おなか、また動いたっあはっ」
「虫とっ私のっ赤ちゃん、できたっ名前、どうしようかなぁっふふっ」
「いつ産めるかなぁ、私、お嫁さん、なりたかったから嬉しいなぁ、あはっあは……」
ヴァレリー「2人はあなたを餌に誘い込むことに成功したの。あとは一網打尽にするだけ…
…あと少しで終わるの」
百合子「リーダーとっいつか結婚した時ねっ私ねっ名前ねったくさん考えてたの」
「でも、またさいしょからだねっ考えようねっ赤ちゃんの名前、ね？なにがいいかなぁ」
「虫って、男の子と女の子、どっちかなぁ？女の子だったらいいなぁ、ね？ね？女の子のほうがいいよね？」
「子供できたら、かわいいお洋服着せて、おしゃれしてぇ……ひぐっ……髪も伸ばして、リボン……」
「うぅ、うぇぇ、うわぁぁぁん、りーだぁ、りーだぁー、あいたいよぉ……！」
「うわぁぁぁぁ……ひぐっえぐっあいたいよぉっすきっだからぁ、あいたいぃぃ、あぁぁ……うあぁぁ……」
「えぐっひっひぐっうえぇ……ひっあっ動いた、動いたぁ、また動いた、赤ちゃん」
「ふふ……あはっもうちょっと、もうちょっとかなぁ……早く産みたいなぁ……」
「ねぇ、名前、どうしよっか？ね？女の子、女の子かなぁ……むしって、男の子と女の子、どっちかなぁ？」
「あひっふふっあははは っ！どっちでもいいよねぇ、私たちの子供だからぁ、どっちでも、すきぃ」
「だから、名前……考えなきゃ、たくさんねっ考えたけど、最初から、考えようね」
「あはっ嬉しい？動いてる……わたしもしあわせだよっ、ずっと、いっしょだよっねっ？」

7.　7日目

（鉄の扉が開く音）

ヴァレリー「灯りをつけろ」

（スイッチ）

百合子「赤ちゃん……わたしの子供……よく寝てる……」

ヴァレリー「昨晩のうちに死んで、排泄でもしたって感じね……ねぇ、百合子」

百合子「ねーんねーん……ころーりー……なんだっけ……ふふっまぁいいや……」

ヴァレリー「あなたのおかげで無事、あいつらを始末できたわ……ほら、これが死体の写真、見る？」

百合子「あぅ？　あっ……あはっ、ねっ見て赤ちゃん、パパ、パパだよっほらっ」

「パパもおねんねしてるねっあはっ幸せそう……私たちも幸せ、家族だから……ね？うん、だよね、ふふっ」

「もうすぐ夏かなぁ？覚えてる？わたしね、最初にあなたを見たの、夏の時だったんだよ」

「同じね、超能力者の人ってどんな人だろってね、パパのこと探したんだよ？」

「それでね……わたしね、あなたのこと見た時から、ずっと……ふふっ」

ヴァレリー「もはや我が組織の邪魔をする者はいない……あなたのおかげよ、百合子。ありがとう」

百合子「えへ？あ？あはっだってぇ、よかったねぇ、ほめてもらえたねぇ、よかったねぇ」

「いい子に育とうねぇ、大きくなったらぁ、パパといっしょにぃ、おでかけ、あはっしようねぇっ」

ヴァレリー「全員整列！」

「長き戦いの日々も終わった、今日から我が組織は世界征服に向け侵略を再開する」

「総帥に代わり、この場で私がお前らを改めて労おう、ご苦労だった」

「お前らの仲間の犠牲なしでは勝利は望めない戦いであったが、われわれはこうしてここに立っている」

「生き残った褒美として、これよりこの女をお前らの所有物として扱う事を許可する」

「他の下級戦闘員にも伝えておけ、性処理用の部屋に新しいのをいれる、とな」

「寄生虫が一週間、じっくり仕込んだから具合もいいだろう。ふふっもう使いたいか、いいぞ」

百合子「んぁ……？なぁに？おでか……んぉ〝っ！？がっ、はぁ！」
「うぁっ！あっこれっちんぽ？　あっあっあっ、ちんぽ、ちんぽだぁ」
「あんっいっあっ、んふっぁ、ぱぱのちんぽっきもちいっ」
「ふとくてっ、んぁ！あ〝っんっんっんっ、かたぁい……！」
「わらひのまんこっ、みっちりつまってりゅ、ちんぽっあっ」
「ひもひいい、きもちいいよぉっんっあっあっあっぱぱのちんぽっ」
「あっあっあっあ、あっあっ、いっあっ、あぁぁぁぁ……」

ヴァレリー「死んだらいつものように処理しておけ、私はしばらく休む」
「あいつらの死体を人体改造できないか研究も進めたいが……まずは久しぶりにのんびりするとしよう」
「これからはどんどんやりたい事ができるぞ……晴れ晴れとした気分だ、ふふっあははははっ！」

（ヒールの音が遠ざかる）
（鉄の扉が閉まる）

∞.　おまけ1　下級戦闘員の性処理道具　※ループして聞いてね！

「んっ、あっ、あ、うぅぅ……あっ、あっ、あっ、ひぃぃんっ！」
「はふっ、あ、あ、あっ……うふぅんんっ！！」
「はっ、はん、あっ、はぁ……あんっ……あっ、あっ」
「あはぁんんっ、……あっ、んうっ！　くっ、ひゃあぁぁ……あふぅぅっ」
「ひっ、ひゃあぁぁっ！　あぁぁぁ……んっ、はああんっ！！」
「うっ、ふあんっ……くうっ……あ、はぁぁ……うはあぁ……んくっ……」
「あふぅ、うっ……んっ、イクっ、イク……イッ、はぁぁぁんっ！！」
「んっ、んぅうぅ……あぁっ、はっ、んんうぅ……あぁひぃぃ……んんっ！」
「イクっ、イクっ、イクっ、イクっ、イクっ、イクっ、イクっ、イクっ、」
「あひぃいいい

9.　おまけ2　怪人の性処理道具　※ループして聞いてね！

（ピストンでつかれているイメージで、全て一定リズムの同じボリュームで）
「あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！」
「あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！」
「あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！」
「あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！あ〝っ！」
（射精音）
「あぎぃいいいいいいいいいいいいいい！」
（絶叫中に無理矢理、口に触手を突っ込まれイラマチオ）
「おぶっ！　んぐっ！　ぶぶぅぅ！」
「ん〝お〝ぉぉっ、お〝ぶぅうううう！」
「お〝う〝ぅっ、ふぼっ、んぼぉぉっ……」
「お〝ひっ、ん〝ひぉぉっ……んほっ、おぉっ……ひんっ、うひぃっ……」
「お〝う〝ぅっ、お〝ほぉっ……」
「お〝ぉぉぉっ！　お〝ぼっ！　ぶぶぼっ！」
「ん〝っ！　ふぼっ、んぼぉぉっ……ん〝ん〝――ん〝ん〝――！」
「お〝ぼぼぼっ！」
（射精音）
「ぶべぼばばぶぶぶばばばっ！」（口から精液があふれるほどの量が出る）
「ごばっごばっ！ぶぼばっ！」
（じゅぼっ！口から一気に引き抜く）
「ぶばっ！」
「がはっ！　がはっ！　うげぇ……　げほっげほっ……　うえぇぇ……」
「はぁはぁ……うえっ……はぁはぁは……」
（一気に下から挿入され、突き上げられる）
「はひぃいいいいいいいいいいいい！」
「はひっ！　はひっ！　はひっ！　はひっ！」
「ひぃいいいいいいい！　ひぃいいいいいいい！」
「ひぎっ！　あっぎぃぃぃっ！」
「あぎっ！　あぎっ！　んひぃぃぃぃぃ！」
「いぐっ！　いぐっ！　いぐっ！　いぐっ！　いっぢゃう！　いっぢゃう！」
「いっぢゃうっいっぢゃうっいっぢゃうっいっぢゃうっ」
「ひぎぃいいいいいいいいいいいいい

10.　サークル挨拶音声（購入者用）キャラづくりする必要なく、事務的に読んで下さい

「サークル、ケチャップ味のマヨネーズ」
「この度は本作品をご購入いただきありがとうございます」
「本作品は音声作品です。イヤホンやヘッドホンなどを使用して」
「椅子に座ったり、ベッドに横になるなどしてリラックスした状態でお聞き下さい」
「音声に気をとられすぎて椅子やベッドから落ちたり」
「物にぶつかるなどして怪我などしないようお気をつけ下さい」
「また、イヤホンやヘッドホンの端子が抜けていることに気づかず」
「スピーカーから大音量で本作品を再生した場合、あなたの人生に深刻な
問題を発生させる恐れがありますのでくれぐれもご注意ください」
「それでは、本編をお楽しみ下さい」

11.　体験版ダウンロードの案内音声

「この度は体験版をダウンロードいただきありがとうございました」
「体験版をご試聴いただき、気に入っていただきましたら
製品版をご購入いただけるととてもうれしいです」
「今後ともサークル、ケチャップ味のマヨネーズをよろしくお願いいたします」